

MOMO 企画の「ファンタジーと現実の関係を考える」として以下の文章を掲載します。ご意見を頂ければ幸いです。5つ目の考察です。

MOMO 企画の「ファンタジーと現実の関係を考える」 5

——ファンタジー世界として世界を獲得する——

人が自分の周囲を理解し、世界を徐々に獲得していく過程

-共同幻想論(吉本隆明)を意識して、心の理論の好調・不調を気にして-

発達クリニックぱすてる

東條恵

2021年3月27日

自分の周囲を理解し、徐々に「世界を獲得する」ということは、「認知」という情報処理を通して行うわけです。その脳内の「認知」情報処理作業を段階別に説明してみます。これは、「ファンタジーと現実」という対比の中では、ファンタジーに属するはずですが、

認知の段階について

それでは、認知の段階を吉本隆明氏が共同幻想論の中で使った枠組み=3つの段階(①②③-1、③-2)を気にしつつ、私なりの理解で概括しまとめてみます。デジタル時代の認知の歪みについての概括(④-1、④-2)も試みてみました。

1) 個人の認知 図1 (吉本隆明氏の個人幻想?)

心の理論の好調者では：「私達人間がどうやって自分=自分の精神世界を形成していくか」では、自分の前に現れてくる他者の存在が大きいことは理解できます。自分の脳内システムである心の理論システムを使って他者とのやり取りをする中で、様々なことを学びつつ、自分の立場を確認し自己を確立していくと思われれます。乳児が母的存在(主には母)を認知し、その母的存在に対しての愛着を育て、母子愛着関係が確立していきます。そして母子分離する頃には、自分と母的存在が別個の存在であることに気づいていく、つまり個人の認知・自己の芽生えが成立していきます。アイデンティティの始まりです。「自分はこう感じ考えるが、他人はどうも自分と違うように感じ考えている」という感覚の芽生えです。

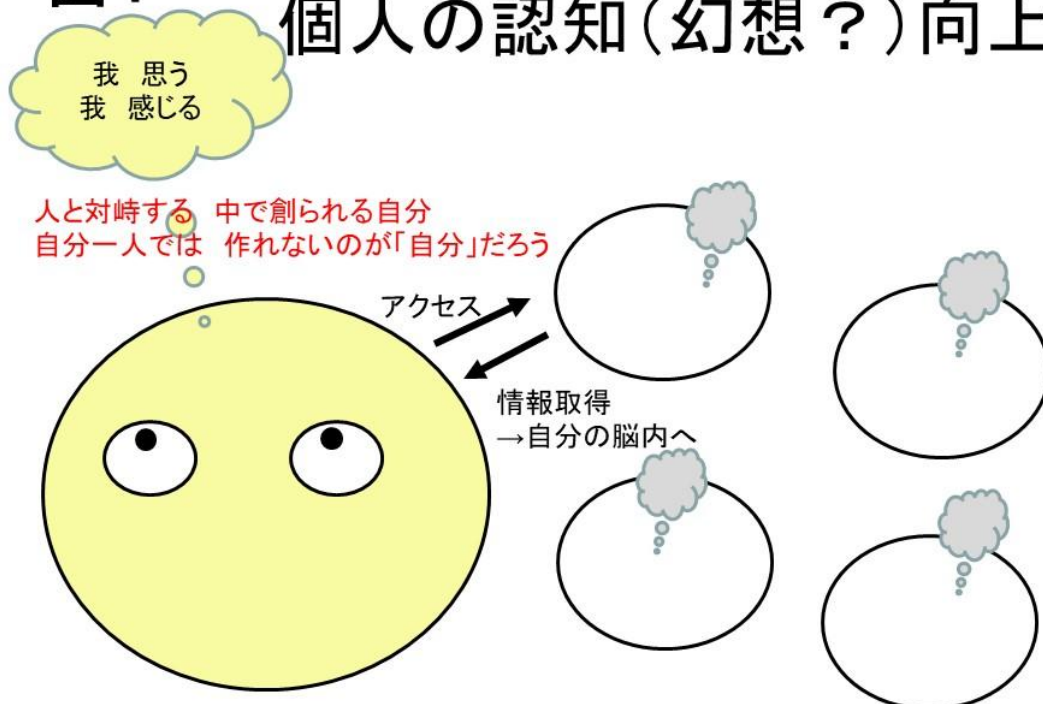
これ以降、自己がよりできあがっていくわけですが、心の理論を使って社会的存在としての

考え方を、多くの方は身に着けていきます。

心の理論の不調者では：心の理論が不調な分、他者が考えていることを自分のものとして取り込む、ないしは使うことができにくいはずですが。その分自己の確立に時間が掛かり、つまり発達が遅れるでしょう。言葉も遅れ、どう感じ考えるかも遅れるでしょう。周囲からは、遅れに気が付かれ、何を考えているかわからない人、何故言葉が遅れているのだろうと思われることになるでしょう。本人は心の理論の動きがゆっくりである中で、他者への興味が少なく、他者から学習するというスタイルが遅れている等の中で、発達が遅れるということになるでしょう。または、心の理論が不調であると、マイペース→自己中心的→わがまま的に見える振る舞いとなり、感情的・暴力的な行動も出やすくなることとなります。

図1

個人の認知(幻想?)向上



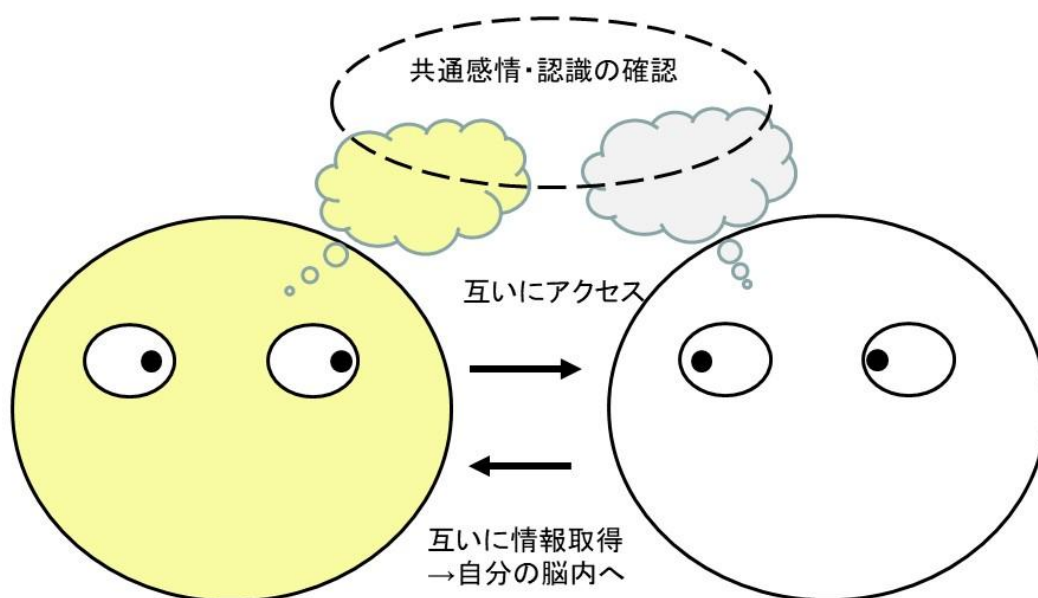
心の理論が不調の自閉症では不十分で異文化性あり?

2) 二人の認知 図2 (吉本隆明氏の対幻想?)

心の理論の好調者では：個人の認知が成長する中で、人と気持ちを交流する中で、他者の気持ちと自分の気持ちが同じ内容である(例えば互いに好意を持っているとか)ことに気が付きます。これは「恋愛」「友達関係」「親友」の始まりになりうるでしょう。互いは別人であり、別個の脳であり、決して同一になれない個体同士ですが、きわめて類似した感情・認識を持ち共有することになるわけで、ここに類似の思い(おそらく幻想といえるファジーなもの)＝意識内容が形成されるのでしょう。

心の理論の不調者では：心の理論が不調な中で人を好きになる内容は、心の理論好調者とは違った内容と推測されます。「友達」とか「親友」というイメージも、おそらく心の理論好調者と違うと推測できます。また恋愛のイメージも心の理論好調者とは違うでしょう。心の理論の不調は様々な面に影響するでしょう。相手が心の理論不調の場合に、心の理論の好調者ではカサンドラ症候群と名前が付けられた、「互いに理解しあえない虚しさ、気持ちの共有ができない虚しさ」にさいなまされることが知られますが、心の理論不調者の場合にはどのような悩みが生まれるのでしょうか。うまく推測できていません。

図2 二人の認知(幻想?) 例:恋愛、親友



心の理論が不調の自閉症では不十分で異文化性あり?

3)-1 集団の認知—家族 図3 (吉本隆明氏の共同幻想?)

心の理論の好調者では：二人での認知の内容は、互いが心の理論を使つてのもので、共通・類似しています。互いの心の中に共有する内容が出来上がっていくでしょう。それが家族メンバーに広がるわけですが、この規模の広がりまでは、個人として理解・推測できる範囲だと思います。

心の理論の不調者では：心の理論が不調な方の家族メンバーへの思いは、心の理論好調者の家族への思いとは異なり、意外にあっさりとしていたり、意外に家族関係を気にしていなかったりなどが起こりえるとの推測も可能ですが、どんなでしょう。このように感じる事が心の理論不調者の児・者と接つする中で感じる事が有ります。「一面的な印象で物を言っているのではないか」と指摘されるとすると、私には太刀打ちで

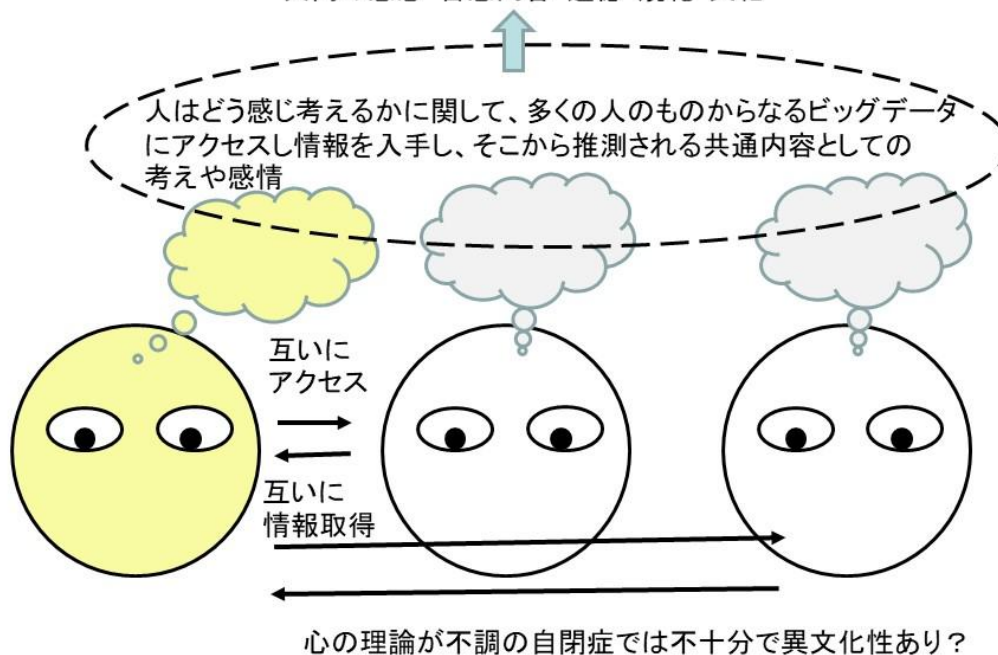
きる程の経験はないとも思いますが……。家族的集団をどう認知するかは、心の理論好調者とは異なることは推測することができます。

集団の認知(幻想?) - 家族

図3

例: 家族の決まり事

共同の意思・合意内容・道徳・規範・文化



3)- 2 集団の認知—地域社会・国家 図4 (吉本隆明氏の共同幻想?)

心の理論の好調者では：顔が見える町内会や親族の集団は、まだ把握し理解できる範囲と推測します。しかし市や県全体となると、把握できる限界を超えているでしょう。顔が見えなくなり、具体的な人のイメージが消えるでしょう。おそらく自分の知りうる他者に起こっている範囲のことが、市や県を構成する多くの人に同じ様に起こっているに違いないと推測し、それをもって安心しようとするのが多くの人でしょう。「類推を使う」のでしょう。それ以外に手段はないでしょう。おそらく、このような状況の幾重もの積み重ねが、国家のイメージになりましょう。一方、ここには何らかの「大いなる飛躍」があり、こう単純な話ではないだろうと感ずます。そこでは、「人が居るようで、具体的な人がいない世界」になっているのではと思うからです。自分の理解しうる範囲でないと感じた場合には、不安が引き起こされ、理解できないと判断するでしょう。例えば、肌の色の違いによる不安の引き起こしなどは(肌の色の違いに慣れていない多くの人には起きやすいですが、多民族国家の人々では起きないわけで、その人々の経験によって異なるでしょう)、経験や学習不足の中で、情報処理ができない対象と評価・判断し、問題への直視や解決への模索を回避するのでしょう。

心の理論の不調者では：地域社会や国家という概念の認知も、多数派とは異なるだろうと

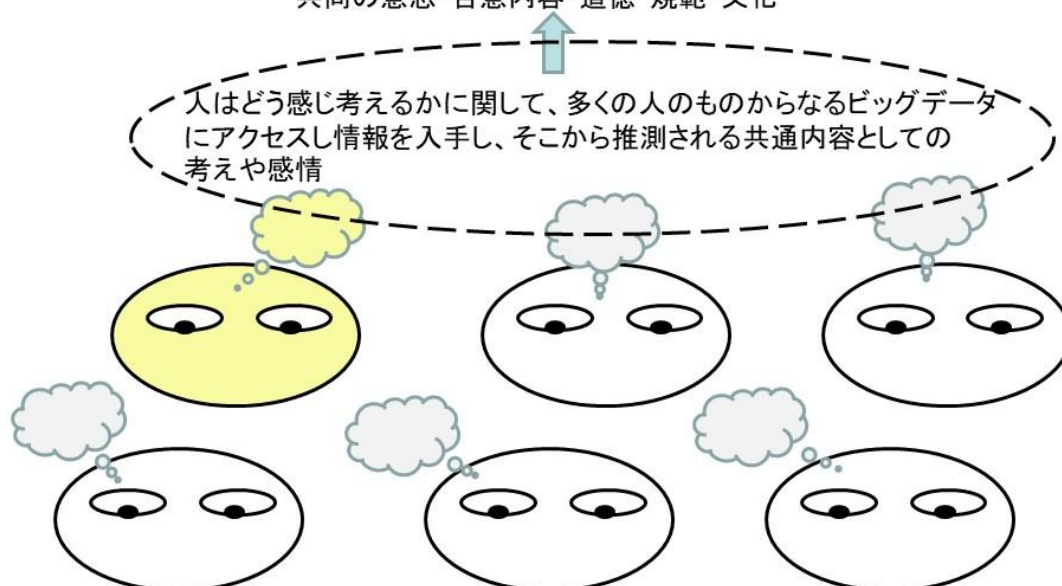
論理的には推測します。心の理論好調者の多くが起こしやすい感覚、例えば同じ肌の色での連帯感とか、同じ考え方の思想集団とか宗教集団などは、心の理論不調者の場合ではどのような感覚に基づいて成立するのか、しないのか、今の私には上手く整理することができていません。

集団の認知(幻想?)—地域社会・国家

図4

憲法、条例、社会常識、儀式

共同の意思・合意内容・道徳・規範・文化



心の理論が不調の自閉症では不十分で異文化性あり?

4)- 1 デジタル時代の心の理論を含む脳システムのゆがみ—子ども集団 図5

心の理論の好調者では：心の理論好調者でも、ゲームなどのデジタル遊びに深くはまると、おそらく心の理論の動きが不調になり、心の理論を使うことが少なくなり、他者の把握は苦手・困難になると感じます。そして、集団の意思を想像し、集団としての共通の意思を確認することはより困難になり、想像すらしなくなるかもしれません。自分一人の脳内世界へ引きこもりやすくなるのかもしれません。他児との集団外遊びや家の中でのアナログ遊びを好まないのではと推測できます。つまり、子どもの中で個人主義が蔓延しやすくなるのではと推測しますが、どんなものでしょう？

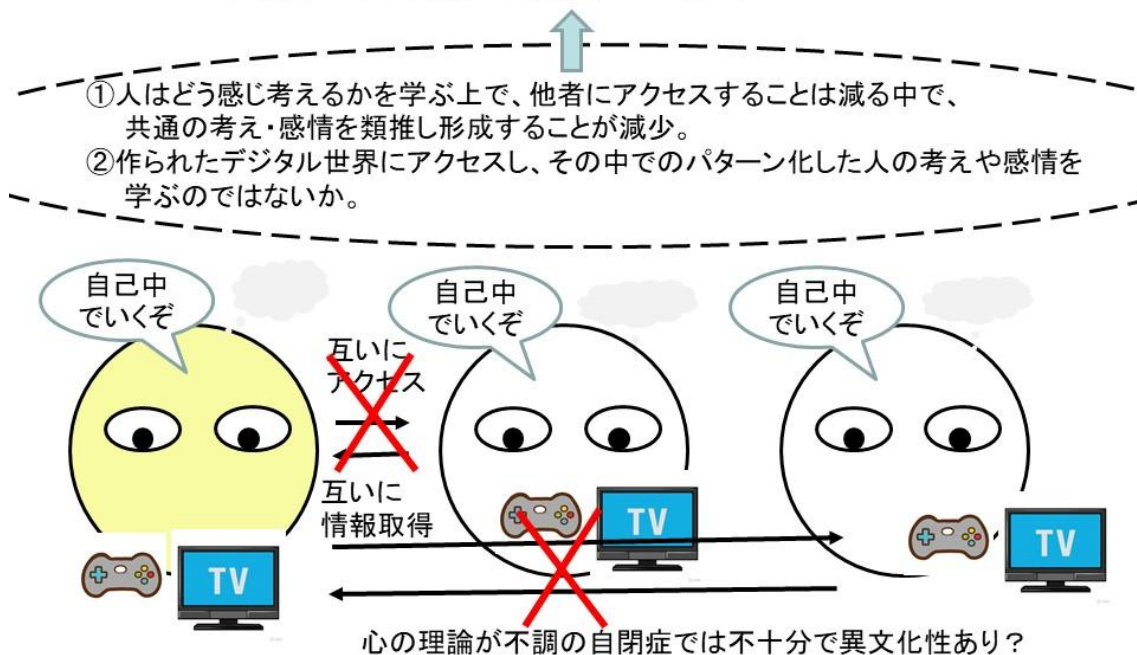
心の理論の不調では：心の理論好調者で見られるデジタル機器によるマイナス的要素は、心の理論不調者においてはあまり強い影響を受けないかもと推測したりもしていますが、どんなものでしょう？いや現実はそのようではなく、より一層問題性を呈していることも多いようです。自閉の幼児期では、四角い窓にはまって自閉症状を強めている方

が多いからです。デジタル機器から離れることで、自閉症状は改善し、より社会性が向上した状態になることを経験します。

デジタル時代のゆがみー子ども集団

図5

共同の意思・合意内容・道徳・規範・文化の形成は困難だろう
すりあわせする気持ち・我慢することが育たず



4)- 2 デジタル時代のゆがみー地域社会～国家 図6

心の理論の好調者においても、小さな子ども集団ではなく人数の規模が極めて大きくなる(地域社会・国家)と、より一層心の理論を使う必要・理由がなくなり、心の理論を及ぼせる範囲ではなくなり、結果として自己中心的になる傾向は強まると推測されます。周りは理解しにくい世界なので、自分に頼ることに終始するかも知れません。または、自分の知りうる範囲で心の理論によって獲得できた共通の考えを、全体に当てはめて推測するしかないでしょう。自分の考えはあるが、他人も同じように考えているに違いないとかです。自他境界が不明瞭といえます。心の理論の不調者では、心の理論好調者でもデジタル社会で育ちシステム不調をきたす人と同じようであるかも・・・と思いますが、どんなでしょう。

デジタル時代における若者の政治離れ・政党離れや、または他者への興味が少なく、回避型愛着パターンを取り、人と付き合うことが苦手な中で人を避けようとする状態は、このような流れで理解できるのかもしれませんが。個人としての意思は主張するのですが、アナキー（無政府主義的というか、一貫性のない、まとまりのない状態）的となり、集団の意思を形成することや国家的な意思の成立に関して興味が遠のきやすいと

推測できます。

デジタル時代のゆがみー地域社会～国家

図6

共同の意思・合意内容・道徳・規範・文化は困難
個人主義的、アナキーな状況になる可能性もある
一方、ネット情報による洗脳され同一の考えや感じ方に
ーファシズムなど モトーンな流れが出現する可能性

- ①人はどう感じ考えるかを学ぶ上で、他者にアクセスすることは減る中で、共通の考え・感情を類推し形成することが減少。
- ②作られたデジタル世界にアクセスし、その中でのパターン化した人の考えや感情を学ぶのではないか。



このようなことを考えてみました。 とんでもなくつまらない内容、間違った内容かもしれませぬ。しかし私にとって必要な作業としてありましたので、このように書いて自分なりに整理を試みました。ご意見ありましたら、ご教示いただければ幸いです。

以上。